

## 第2章 史跡難波宮跡をとりまく環境

### 1 自然環境

#### 1) 位置と地形

難波宮跡は、大阪平野の中央を南北に貫く上町台地の先端に位置する。この付近の地質は、中位段丘の上町累層と呼ばれ、砂・礫を主体として多くの貝化石を含んだ海成粘土などで構成されている。これらの地層が約100万年前に生じた地殻変動によって隆起して形成されたのが上町台地である。台地の東西幅は約2,000mあり、最も標高が高い場所が大阪城で海拔約25m、南に行くにしたがい徐々に低くなり、阿倍野付近で海拔約15m、住吉区我孫子のあたりで海拔約10mとなる。

上町台地は、難波宮跡に隣接する大阪城の北側で急激に低くなり、その場所で淀川水系の大川と旧大和川水系の寝屋川とが合流して西流し、堂島川、土佐堀川、安治川、木津川、尻無川と流れ、大阪湾に注ぐ。近世にはこれらの川と繋がる堀川が縦横に開鑿され、今日に繋がる大阪の町割りの基礎が形成された。堀川は戦後の高度経済成長期に多数埋め立てられ、高速道路などに姿を変え、今では東横堀川と道頓堀川を残すのみとなっている。

台地の西には大阪湾の湾岸流によって形成された標高2～5mの難波砂堆とその北に形成された天



図4 大阪平野中央部の地形分類図(建設省国土地理院1965をもとに一部加筆)

満砂堆が伸び、これらの砂堆の位置は、豊臣期に城下町が形成される範囲とほぼ一致している。一方、台地の東に広がる河内平野は、今から約7,000年前の縄文時代前期には大阪湾と繋がる内海であったが、その後の海水面の低下と旧大和川水系の河川が運ぶ土砂によって陸化がすすみ、約2～3,000年前に潟に、1,700年前頃には淡水の湖に変化したと考えられている。このように大阪の発展は、上町台地と淀川水系や旧大和川水系などの多数の河川が織りなす自然とそれに働きかけた人々の営みによって形成されてきたといえよう。

## 2) 景観

都市大阪の歴史は、上町台地上につくられた5世紀の倉庫群(法円坂遺跡)とそれに続く飛鳥時代・奈良時代の難波宮に始まり、瀬戸内海や淀川の水上交通と共に発展をみた。都市としての景観も難波宮とそれを起点に南へとのびる難波京朱雀大路跡、そのまわりに配された四天王寺や条坊を持つ難波京に遡ることができる。この上町台地を南北に結ぶラインは中世の熊野街道に引き継がれる。それを受けて、豊臣秀吉の大坂城築城と城下町の建設により今日残る町割りの基礎が完成する。この城下町建設において、上町台地上には四天王寺に続く寺町と町屋が、台地の西には船場が、北には天満の町が形成された。江戸時代になると豊臣時代の船場を西と南に拡大するよう多数の堀川がめぐらされ、

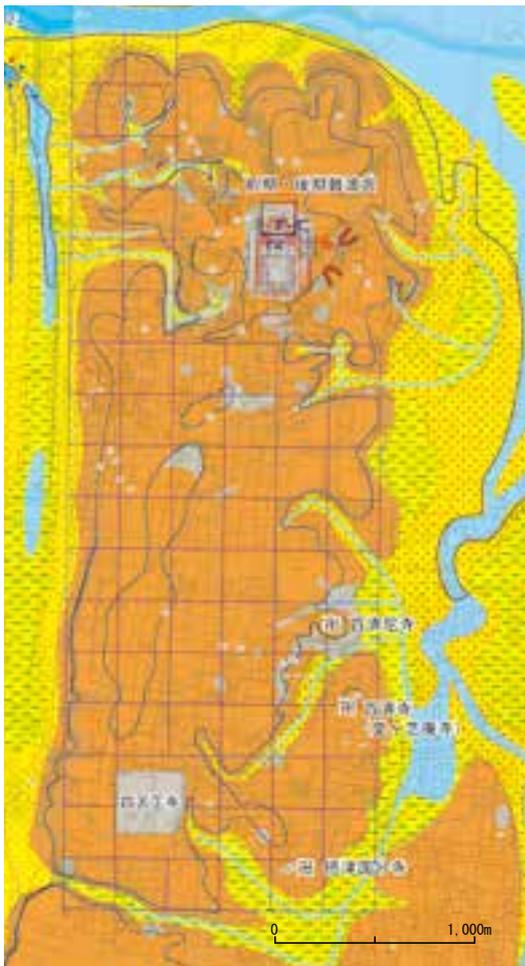


図5 古代の上町台地(趙ほか2014)

その水運を利用して中之島の蔵屋敷群や、堂島米市場がおかれ、全国の物資の流通拠点となった。

近代になると、都市計画に基づく道路、鉄道、港湾、公園などの社会基盤の整備がすすみ、都市の緑化、建築物やまちなみの整備など、多くの分野で市民、事業者と行政が一体となったまちづくりがすすめられてきた。町人の町であった船場、徳川期の武家屋敷を踏襲して軍や公共施設が多数を占めた大阪城周辺地域、官営工場が建設された天満など、徳川期の町割りを踏襲しながら独自性のある町が形成された。

難波宮跡周辺域は、今日の大阪都心の中核となっており、高度な土地利用がなされる一方で、大阪の歴史を伝える歴史資産や開放的な水辺などが調和し、豊かな都市景観を形成している。特に、難波宮から大阪城を見通すビスタ(見通し線)は、かつての城下町から大阪城天守を見通す景観を想起させ、城下からの景観演出の機能をうかがうことも可能である。ただ残念なことに、このような歴史的な景観も難波宮跡を分断する阪神高速道路が、計画地の景観阻害要因となっている。

## 2 社会環境

### 1) 難波宮跡公園の概要

難波宮跡公園は、歴史公園として昭和49年(1974)に7.0haが都市計画決定され、その後さらに4.2haが都市計画決定された。現在、南部ブロック・西部ブロックでは、遺構の保存・復元整備を一部おこなっているが、北部ブロックは都市公園としては開設しておらず、未開設区域となっている。西部ブロックは、1.2haのうち1.1haが公園開設区域となっている。

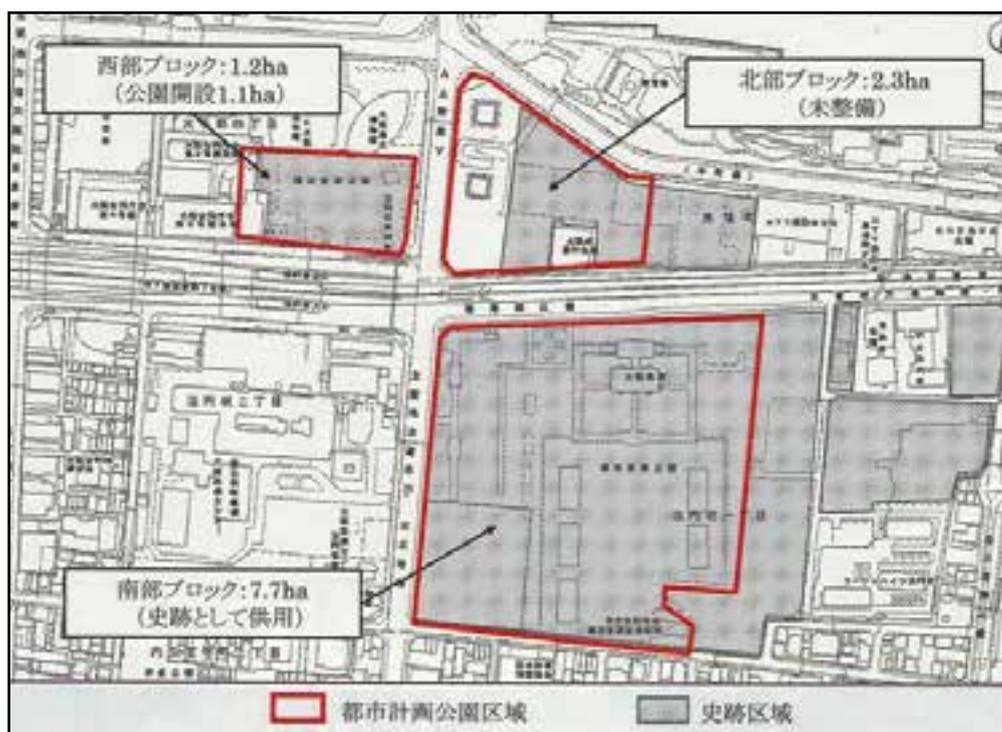


図6 都市計画公園の範囲

### 2) 歴史、文化財関連施設

史跡難波宮跡周辺には、史跡や文化財が多数存在し、これらを結ぶ「歴史の散歩道」が設定されている。

#### ①国指定文化財(史跡)

名称	種別	所有者	指定年月日
大坂城跡	特別史跡	国・大阪市・豊国神社	昭和30年(1955)6月24日
難波宮跡附法円坂遺跡	史跡	国・大阪市・日本郵政(株)・西日本電信電話(株)・大阪市住宅供給公社	昭和39年(1964)5月2日

②国指定文化財(建築物)

名称	種別	所有者	指定年月日
大阪城(大手門等)	重要文化財	国	昭和28年(1953)6月13日
大阪城天守閣	登録有形文化財	大阪市	平成9年(1997)9月3日

③府指定史跡

名称	種別	所有者	指定年月日
越中井	府指定史跡	大阪市	昭和13年(1938)5月11日
舎密局跡	府指定史跡	大阪市	昭和34年(1959)4月30日

④大阪市顕彰史跡

大阪ゆかりの遺跡や文化財の所在地を大阪市顕彰史跡として指定している。市制70周年記念事業の一環として、昭和34年(1959)より顕彰碑や顕彰パネルが設置されている。

計画地周辺の大阪市顕彰史跡について以下に整理する。

名称	指定年	
八軒家船つき場跡	昭和38年(1963)	
がっさんさだかいず 月山貞一旧居跡	昭和46年(1971)	
難波宮跡	昭和56年(1981)	
石山本願寺推定地	平成7年(1995)	
三橋楼跡	平成24年(2012)	
森の宮貝塚	平成25年(2013)	
		顕彰パネル(森の宮貝塚)

⑤歴史の散歩道

「歴史の散歩道」は市内の史跡や古くからの道筋などを結ぶモデルコースとして整備されており、散歩道には、「シンボルマーク」「案内板」「路面標示」の3種類の方法で案内表示がされている。計画地は「上町台地北コース」に紹介されている。



### 3) 周辺大規模施設

史跡難波宮跡周辺には、行政施設や商業施設、教育・医療施設等の高層建築が立ち並んでいる。

難波宮跡公園周辺で、難波宮跡の遺構が発見された箇所や、行政・商業施設、教育・医療施設において人の流れに着目し、多くの人が集まる施設を中心に下図に示す。

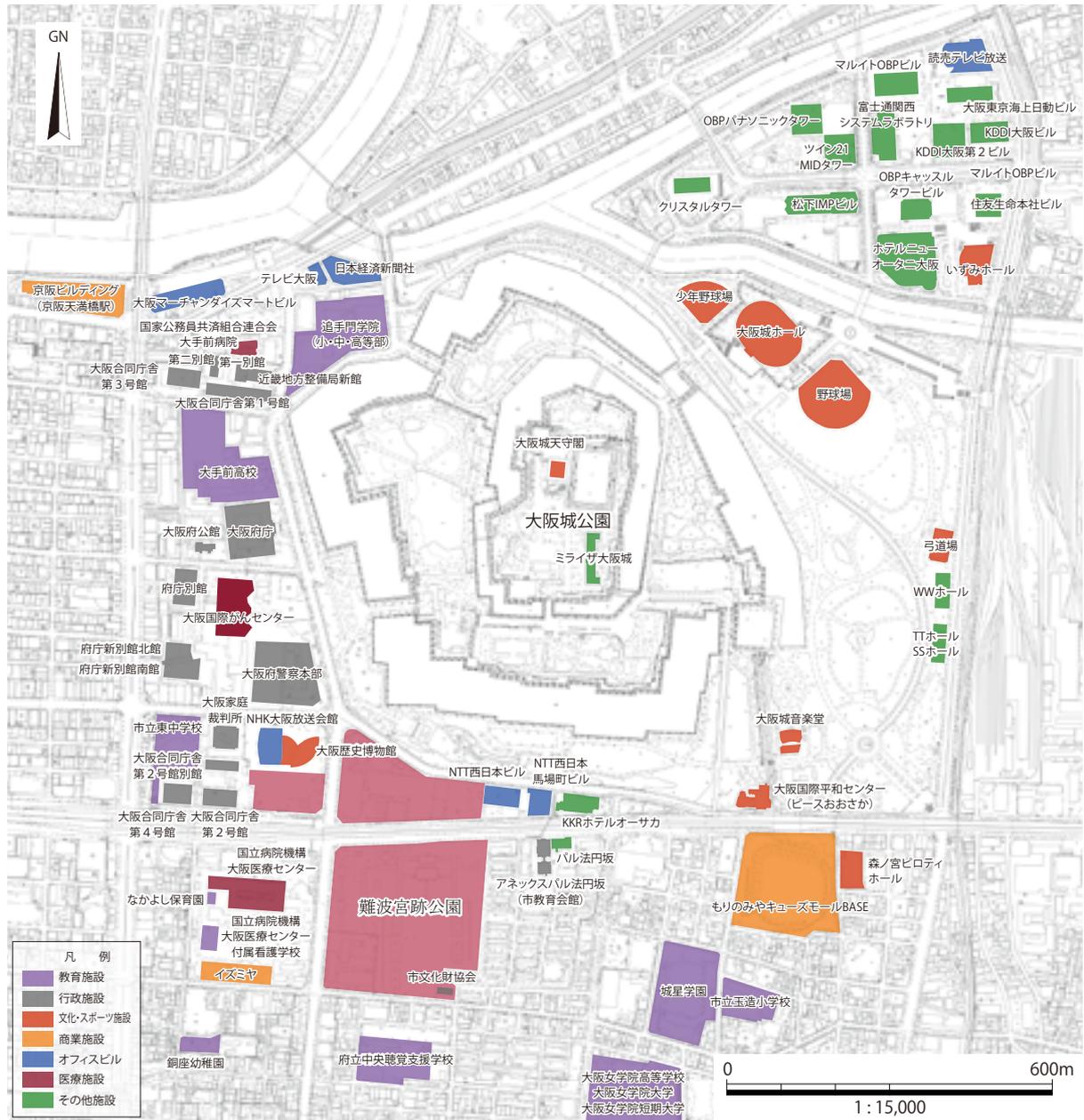


図8 難波宮跡公園周辺の大規模施設配置図



大阪歴史博物館



大阪城天守閣



大阪国際平和センター  
(ピースおおさか)



森ノ宮ピロティホール  
(森の宮遺跡展示室)



大阪府本庁舎



大阪府警察本部



アネックスパル法円坂  
(大阪市教育会館)



NHK大阪放送会館



国立病院機構大阪医療センター



NTT西日本ビル



府立中央聴覚支援学校



もりのみやキューズモールBASE

#### 4) 緑の環境

##### ① 周辺の都市公園

中央区は面積8.8km<sup>2</sup> (880ha)のうち、公園面積が13.5%を占める緑が多いエリアといえる。人口一人当たりの公園面積は13.76m<sup>2</sup>あり、大阪市内では最も多い値となっている。その要因は、100haを超える大阪城公園と11.2haの難波宮跡公園の存在が大きい。

ただし両公園は「特殊公園」のなかの「歴史公園」に分類されるものであるが、これは史跡などの文化財を広く一般に供することを目的とする公園であり、全市民を対象としたものと解すべきである。大阪市全域としての都市公園の面積は約4m<sup>2</sup>/人であり、この数値は全国的にも低い数値であることは、留意すべきである。

計画地周辺の都市公園を以下に整理する。

##### 中央区の公園状況

面積	人口	大阪市営公園（平成26年4月11日現在）			
		公園数	面積	公園面積の割合	人口1人当りの公園面積
8.88km <sup>2</sup>	87,077人	30箇所	1,198,608m <sup>2</sup>	13.5%	13.76m <sup>2</sup>

「大阪市都市公園一覧表（平成26年4月11日現在）」

##### 計画地周辺の都市公園

公園名	公園種別	位置	都市計画決定面積	開園年月日
①難波宮跡公園	歴史公園	大手前4丁目	11.2ha	2001(平成13)年11月1日
②大阪城公園	歴史公園	大阪城	106.9ha	1931(昭和6)年11月16日
③広小路公園	街区公園	上町1丁目	0.43ha	1954(昭和29)年3月31日
④寺山公園	街区公園	上町1丁目	0.19ha	1956(昭和31)年10月15日
⑤越中公園	街区公園	玉造2丁目	0.66ha	1970(昭和45)年3月2日
⑥銅座公園	街区公園	内久宝寺町2丁目	0.52ha	1970(昭和45)年3月2日
⑦玉造公園	街区公園	玉造2丁目	0.52ha	1960(昭和35)年5月5日
⑧城南公園	街区公園	森ノ宮中央1丁目	0.54ha	1966(昭和41)年5月5日
⑨森之宮公園	街区公園	森ノ宮中央1丁目	0.24ha	1956(昭和31)年5月17日

※歴史公園・・・「特殊公園」の「歴史公園」に位置づけられる。

史跡、名勝、天然記念物等の文化財を広く一般に供することを目的とする公園で文化財の立地に応じ適宜配置する。

※街区公園・・・「基幹公園(住区基幹公園)」の「街区公園」に位置づけられる。

もっぱら街区に居住する者の利用に供することを目的とする公園で、誘致距離250mの範囲内で、1箇所当り面積0.25haを標準として配置する。



①難波宮跡公園 北部ブロック



①難波宮跡公園 南部ブロック



②大阪城公園



③広小路公園



⑤越中公園



⑥銅座公園

図9 難波宮跡公園周辺の都市公園配置図

## ②周辺の樹木

難波宮跡公園周辺に植栽されている樹木について、配置や樹種について整理した。

### 【計画地周辺の樹木】

No	施設名称等	樹種等の特徴
1	馬場町交差点周辺植栽樹	クスノキ・ケヤキの植栽樹
2		クスノキ・ヒラドツツジの植栽樹
3		クスノキ・ヒラドツツジの植栽樹
4	市道本町左専道線(本町通)街路樹	シラカシ並木
5	大阪城公園「老人の森」	常緑樹中心の樹林が形成
6	大阪歴史博物館前植栽帯	様々な樹種が植栽されている 高木：クスノキ、ケヤキ、コブシ等 低木：サツキツツジ、ツゲ等
7	主要地方道赤川天王寺線(上町筋)沿いの街路樹	アメリカフウ並木
8	馬場町交差点周辺植栽樹	シャリンバイ・クスノキの植栽樹
9		シャリンバイの植栽樹
10		シャリンバイの植栽樹
11	北部ブロック南側	植栽帯はない
12		ウバメガシの生垣
13	南部ブロック北側道路沿いの植栽帯	シャリンバイの植栽帯
14	主要地方道赤川天王寺線(上町筋)沿いの街路樹	アメリカフウ並木
15	南部ブロック南側道路沿いの街路樹	トウカエデ並木

大阪城公園（老人の森付近）



主な樹種：クスノキ、ケヤキ、シラカシ、イチョウ、アキニレなど

### 南部ブロック（中央大通沿い）



主な樹種：クスノキ、ケヤキ、エノキ、ムクノキ、シラカシ、アラカシ、シダレヤナギ、イチョウなど

### 西部ブロック（上町筋沿い）



主な樹種：クスノキ、ケヤキ、サルスベリ、コブシ、ウメ、ユキヤナギ、ニシキギ、オタフクナンテンなど

### 【計画地内の樹木】

計画地内の樹木は、来園者を楽しませる色鮮やかな花木や紅葉の樹木は少ない。北部ブロックは、現況で計画的に配置された樹木はなく、南部ブロックにおいてクスノキ、ケヤキ等の大木が生育している。樹木調査の概要は下の図のとおりである。なお、南部ブロックには四季を楽しむ花木として、サザンカがある(中木のため、ナンバリング調査から外している)。

### 四季を楽しむ植栽



ウメ  
早春



コブシ  
早春



ヤマザクラ  
春



サルスベリ  
夏



イロハモミジ  
秋



オトツバキ  
冬

## 樹木景観



桜並木



緑陰



アイストップ

### 【景観阻害要因の緩和】

景観阻害要因となる大きな人工構造物は、①阪神高速(特に阪神高速の遮音壁)、②バス駐車場、の2つがあげられる。基本的には、常緑樹を主体とする緑の緩衝帯を形成するが、安全性や“つながり”の確保のため、必要に応じて、視線が抜けるよう整備し、景観調和を図る必要がある。

### 高木による景観阻害要因の緩和



クスノキによる阪神高速の遮蔽(南部ブロック)



下枝をなくし、視線を通す樹木(西部ブロック)

### ③景観(難波宮跡公園の視点場)

視点場として選定した箇所は、難波宮跡公園の周辺にあって、同公園を俯瞰的に望見できる箇所のうち市民が利用可能なところとした。

No	視点場	見え方
1	大阪歴史博物館内10階展望室	難波宮跡公園全体を俯瞰景観として見渡すことができる
2	法円坂歩道橋	難波宮跡公園全体を視認することができるが、外周の樹木や街路樹で、計画地内は見えない。
3	宮跡歩道橋	南部ブロック・北部ブロックの一部を視認することができるが、外周に植栽された樹木で、計画地内は見えない。
5	大阪城天守閣	難波宮跡公園を視認することはできるが、遺構表示が見えないため、史跡としての認識が難しい。